

## 第 14 回伊那新校再編実施計画懇話会

日時：令和 5 年 1 月 31 日（火）

18 時～19 時 30 分

会場：長野県伊那合同庁舎 講堂

### <次 第>

1 開 会

2 挨 拶

3 両校からの近況報告

4 会議事項

(1) 第 13 回伊那新校再編実施計画懇話会まとめについて

(2) NSD プロジェクトの進捗状況について

委託業務受託者：暮らしと建築社・みかんぐみ共同企業体

(3) 意見交換

5 その他

次回伊那新校再編実施計画懇話会（開催日時等は、改めて連絡）

6 閉 会

【NSD プロジェクト URL・二次元コード】

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/koko/puropo/nsd.html>



## 第14回 伊那新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○印 令和5年1月からの構成員

区分	氏名	所属等
自治体	伊藤 徹	伊那市 副市長
	片桐 健	飯島町教育委員会 教育長
	本多 俊夫	駒ヶ根市教育委員会 教育長
	田中 章	上伊那広域連合 前事務局長
産業界	田畑 和輝	伊那商工会議所 監事
	春日 俊也	駒ヶ根商工会議所 副会頭
	黒河内 貴	株式会社仙醸 代表取締役社長
学識 経験者	福田 正樹	信州大学農学部 教授
	高橋 百合子	長野県看護大学 小児看護学講師
地域	河野 宏	一般社団法人上伊那医師会 長野県学校医委員会委員
	中山 佳代	元上伊那地域の高校の将来像を考える協議会 委員
	竹村 浩一郎	上伊那地域振興局 局長
同窓会	山田 益	伊那北高等学校同窓会 運営委員会委員長
	下島 典子	伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会 会長
PTA	春日 知也	伊那北高等学校PTA 会長
	○木下 恵美香	伊那弥生ヶ丘高等学校PTA 副会長
	城村 義人	上伊那PTA連合会 会長
学校 関係者	高嶋 義人	上伊那小学校長会 会長（駒ヶ根市立赤穂小学校長）
	有賀 稔	上伊那中学校長会 会長（伊那市立伊那中学校長）
統合校 関係者	○改野 瑛士	伊那北高等学校 生徒代表
	○坪木 文佳	伊那北高等学校 生徒代表
	○滝田 大和	伊那弥生ヶ丘高等学校 生徒代表
	○北原 萌七	伊那弥生ヶ丘高等学校 生徒代表
	埋橋 浩	伊那北高等学校 校長
	山岡 久俊	伊那北高等学校 教諭
	松村 明	伊那弥生ヶ丘高等学校 校長
唐澤 功	伊那弥生ヶ丘高等学校 教諭	

オブザーバー生徒（令和5年1月から）

有賀 希（伊那北高校）、宇治田このか（伊那北高校）、阪下 颯（伊那弥生ヶ丘高校）、岸 湊子（伊那弥生ヶ丘高校）

事務局

伊那北高等学校		伊那弥生ヶ丘高等学校		高校再編推進室	
倉澤 克弥	（教頭）・事務局長	佐々木 俊秀	（教頭）・副事務局長	山岸 明	主幹指導主事
山岡 久俊		唐澤 功		田中 聡	主任指導主事 （伊那新校担当）
倉石 典広		春日 雅博			
桐生 祐治		竹松 ゆかり			
齋藤 仁美		原 拓也			

## 第 13 回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

資料1

<b>時・会場</b>	令和4年（2022年）10月7日（金） 18時00分～19時00分 ニシザワいなっせホール
<b>出欠席</b>	懇話会構成員 24名出席、欠席者 3名（片桐健、城村義人、有賀稔） 事務局（県教委：宮澤室長、山岸主幹、田中主任指導主事、石井主事、 伊那北高校 4名、伊那弥生ヶ丘高校 4名）
<b>傍聴者</b>	傍聴 12名（オンライン含む）、報道 4社
<b>会議事項</b>	1 会議事項 （1）報告 ①第12回懇話会のまとめ ②両校からの近況報告 ③NSDプロジェクトの進捗状況について ④校名検討の今後の進め方について （2）意見交換 ①校名検討について ②伊那新校での学びについて 2 連絡事項 次回開催日時等は、改めて連絡
<b>当日資料</b>	第13回懇話会次第、第12回懇話会まとめ、第12回懇話会グループ討議記録、 伊那新校の校名検討についての今後の方針、伊那新校の学校像、伊那新校懇話会での意見、 会場配置図（席図）、意見交換ワークシート、伊那北高校からの資料（2種類）、 伊那弥生ヶ丘高校からの資料（1種類）

### 主な内容（要旨）

#### 【両校からの近況報告】

○伊那北高校から

- ・今年度入学生から、普通科に文系・理系コースに加え、学際コースを設置。文系で、外部とつながり、深く学ぶコースを新設した。（コースは2年次から）

○伊那弥生ヶ丘高校から

- ・2年生の「新しい高校」をテーマにした探究学習の取り組みや、新しい高校についての意見や要望をまとめたものを伊那弥生ヶ丘高校の生徒が発表。
- ・進路希望が実現できるように、選択科目を増やし、入試で使う教科を積極的に取れるようなカリキュラムにしてほしい。友達同士が教え合ったり、グループ討議がいつでもできたりする学習スペース。壁がホワイトボードとして使える施設など、学びや施設に対する意見・要望が発表された。

○大人が、高校生が必要としている学びや施設等の要望を理解するために、高校生との対話が必要

○生徒は一人ひとり違うので、それぞれが輝き、居心地のよい高校になるようハードとソフトの整備が必要

#### 【NSD プロジェクトの進捗状況について】

○9月25日の一次審査により5者を選定。11月6日の二次審査で公開プレゼンテーションを実施する予定。

#### 【校名検討の今後の進め方について】

○校名検討の進め方としては、情報発信の視点から、できるだけ早く校名を決定したいとの考えは変わらないが、教育内容や学びのイメージを共有することを重要視し、校名の公募については一旦先送りしたい。

○また、要項の検討については、これまで出された意見を大切にしつつ、時期を改めて行うこととしたい。

#### 【意見交換】

○校名検討の募集の範囲について

- ・地域に根差した学校にするために、上伊那地域を対象とした方が良いが半数。
- ・一方、通学区は全県一区なので、県内には丁寧に周知をする必要がある。や、全国でOB・OGが活躍しているので、同窓生からの募集を考えると、範囲を限定しなくてもよいのでは、という意見も出た。

○伊那新校での学びについて（主な意見）

- ・先進的な取組：ICTの活用、海外の姉妹校とのオンライン交流、学校が選定したYoutube 講義による自習
- ・小中で行った探究を生かし、上伊那の企業、自治体等の協力のより、「地域を学ぶ、地域で学ぶ、地域に学ぶ」探究学習の推進を要望。
- ・探究について、提示されたものの中から選ぶのではなく、子どもたちが自由に決められると良い。
- ・伊那新校に通う子どもたちが地域の企業・地域の産業を知ることは重要。地域経済団体との情報交換を。
- ・地域との連携については、運営に地域の企業が 継続的に関わり続ける仕組みを作ることが大切。
- ・地域の人と学生が交流できる場の確保、社会人がそれぞれの分野について話をする放課後等の時間の創出。
- ・遠方から通う学生のための寮があればいい。

## 伊那新校 懇話会 グループ討議での意見

令和5年1月31日  
 高校再編推進室  
 伊那新校準備委員会

カテゴリ	項目	期日	主な意見（◇高校生の意見）	方向性
学校運営	学校目標			
学校運営	教育方針			
学校運営	校名	22/07/06	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校名検討の進め方               <ul style="list-style-type: none"> <li>・決定の時期は早い方がいい</li> <li>・新校が目指しているものが示されていない状況では、時期尚早ではないか。</li> </ul> </li> <li>○校名の選考観点               <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合前の高校名にとらわれない新たな名称</li> <li>・地域の思い、両校の伝統を感じられるような校名</li> <li>・地域をイメージできる校名</li> <li>・地域を大切にす観点から、地域が想像できないような校名はふさわしくない</li> <li>・100年経っても使用できるシンプルな校名</li> <li>・格式のある校名</li> <li>・若い人たちの声を聞いて考えていくのがよい</li> <li>・校名として除外する観点を決めておくよよい</li> </ul> </li> </ul>	<p>学びの検討に合わせ、公募の時期は改めて検討するが、できるだけ早く決定する。</p>
		22/10/07	<ul style="list-style-type: none"> <li>○募集のエリアの範囲               <ul style="list-style-type: none"> <li>・上伊那 51.7% 地域に根差した学校にするため、地元を対象 OB・OGに限っては全国に呼びかける</li> <li>・長野県内 20.7% 県内には丁寧に周知をする必要がある 同窓生は対象</li> <li>・全国 17.3% 県外にも両校のOB・OGが多いから WEB上での募集ができる</li> <li>・指定なし 10.3%</li> </ul> </li> <li>○募集の対象範囲               <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生以上 19.2%</li> <li>・高校生以上 7.7%</li> <li>・保護者 3.8%</li> <li>・同窓生 30.8% (OB・OGからは募集してほしい)</li> <li>・指定なし 38.5%</li> </ul> </li> </ul> <p>※意見交換ワークシートの記述から割合で集計。</p>	<p>公募の時期は先送りにしたが、学びの議論にあわせて、今後、募集要項の検討を始める。</p>
学校運営	校歌			
学校運営	校章			
学校運営	服装・学校のきまり	22/10/07	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇制服規定の変更。制服を採用した場合、夏は男子、冬は女子が気候によって寒かったり、暑かったりする。気候に合わせて自分で服装を選択できるように「常時制服着用」の規定をなくしてほしい。</li> <li>◇頭髪については、社会で認められている髪型はOKにしてほしい。</li> <li>◇アルバイトの原則禁止の規定を見直し（働くことを知るといいうよい面もある）</li> </ul>	
学校運営	その他 (スクールカラー等)			

## 伊那新校 懇話会 グループ討議での意見

令和5年1月31日  
 高校再編推進室  
 伊那新校準備委員会

カテゴリ	項目	期日	主な意見（◇高校生の意見）	方向性
地域連携	地域	22/10/07	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上伊那広域で教育を考える。学校の応援団「地域本部」の設置（金も人も口も出す）</li> <li>・生徒が将来をめざす職業等をリアル又はバーチャルで体感し、改めて進路等について考える機会の提供</li> <li>・地域を学び、将来の地域のあるべき姿をデータやロジックでまとめ、対案するような機会の提供。地域課題の解決</li> <li>・地域と連携したボランティア活動の実施</li> <li>・夜、地域で教室を開く（ボランティア）</li> <li>・社会に出るために地域と学校との連携が強く結びつく学校</li> </ul> ◇生徒と地域だけでなく、地域と学校間のつながり学校通しのつながり	
地域連携	大学等・企業	22/10/07	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経済団体との情報交換をぜひ（商工会議所、ロータリークラブ、JOCA、JICA等）</li> <li>・信州大学出前講座の利用、模擬授業</li> <li>・伊那新校に通う子どもたちが地域の企業・地域の産業を知ることが重要</li> <li>・JICAとの連携で学校が世界とつながるとよい</li> <li>・大学生との交流</li> <li>・工業、産業について学びを深める</li> </ul>	
地域連携	小・中学校等	22/10/07	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で総合的な学習を行っており、地域から学んでいる。中学校でも職場体験などキャリア教育等で地域の協力を得ながら学習を進めている。新校で、小中で学んだことを基に、伊那市を中心に、上伊那の企業、自治体などの協力を得て、「地域を学ぶ、地域で学ぶ、地域に学ぶ」探究の推進を希望。</li> <li>・小中高の連携（小中からの継続性を大切に）</li> </ul>	
地域連携	コンソーシアム	22/10/07	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営に地域の人が入る。その時々に合わせて変えていけるようにする。</li> <li>・地域との連携については、運営に地域の企業が継続的に関わり続ける仕組みを作ることが大切</li> </ul>	
地域連携	プラットフォーム	22/10/07	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊那市が魅力ある地域になるよう、企業もしっかりアピールしてほしい。</li> <li>・遠方から通う学生のための寮があればいい。</li> <li>・伊那じゃないと学ばないこと。農・エネルギー・森林など、強みを学べるようにする。</li> <li>・地域の人と学生が交流できる自習スペースや場の確保、社会人がそれぞれの分野について話をする放課後の時間などを作ってほしい。</li> <li>・農業分野は新校と連携できる土壤がある。</li> </ul>	
進路・学習指導	単位制			
進路・学習指導	教育課程（カリキュラム）	22/10/07	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇進路希望が実現できるように、選択科目を増やし、入試で使う教科を積極的にとれるようなカリキュラムにしてほしい。</li> <li>◇新校では、なるべく教室間の移動が少なくなるような時間割を工夫してほしい。</li> </ul>	
進路・学習指導	総合的な探究の時間 ・課題研究	22/10/07	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究について、提示されたものの中から選ぶのではなく、子どもたちが自由に決められるといい。</li> <li>・テーマを自分で決められるとよい。やりたいことを学べるので、楽しい。（週1、2で）</li> <li>・探究的な学びは、高校だけでなく中学から継続して行えるといい</li> </ul>	

## 伊那新校 懇話会 グループ討議での意見

令和5年1月31日  
 高校再編推進室  
 伊那新校準備委員会

カテゴリ	項目	期日	主な意見（◇高校生の意見）	方向性
進路・学習指導	学びのあり方 (先進的な学び)	22/10/07	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITメディアの一層の活用</li> <li>・ICT、海外の姉妹校とのオンライン交流、学校が選定したYoutube講義による自習</li> <li>◇海外の方々との関わりの向上</li> <li>◇講義が他の一斉授業ではない授業の実施</li> <li>◇いろいろな人がいる⇒さまざまなスタイルがある。</li> <li>個人で勉強したい人、グループで勉強したい人…多様性を確保してほしい</li> <li>◇生徒が意見交換や発言がしやすい授業</li> <li>◇学校と地域のつながりを深めるための授業や学校づくり</li> <li>◇大学生の話を直接聞いて自分の進路を考える参考にしたい。</li> </ul>	
特別活動	生徒会			
特別活動	部活動			
校舎・施設	NSDプロジェクト	22/10/07	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇形や定員を変えられる教室が必要</li> <li>◇10～15人程度でグループワークができる教室をつかってほしい。</li> <li>◇PCによるオンライン講習や英会話レッスンが行える教室や設備。（市立図書館には、調べ学習をしたり、オンラインセミナーを受けたり、英語検定や大学入試対策のための英会話レッスンを受講できるスペースがある。）</li> <li>◇教室全体がホワイトボードで覆われていたり、廊下をホワイトボード使用にする。先生にもその場で質問できる。</li> <li>◇自習室にも、生徒どうしが教え合えるスペース（生徒どうしがお互いに教え合うことは大事だと思う。）</li> <li>◇移動がしやすい校舎（現在は、授業と授業の間で廊下が混み合い移動がたいへん）</li> <li>◇進路室は二部屋にしてほしい。進路についての資料や教材がある部屋と先生に相談できる部屋を分ける。</li> <li>◇エレベーターを設置（松葉杖で階段を上り下りするのは危険）</li> <li>◇食堂や学生向きのカフェをつかってほしい。</li> <li>◇学年全員が快適に話を聞けるような設備の整った大教室の設置</li> <li>◇プールの設置については、生徒の希望聞いて判断してほしい。</li> </ul>	基本計画策定時に向けて検討していく。
広報	地域向け広報			
高校生からの意見		2022/7/6	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇多様な進路に対応したよりよい地域との連携を考えてほしい</li> <li>◇新しい学びやICT活用についての先生方の研修の仕組みを考えてほしい</li> <li>◇柔軟な選択科目の選択の仕組みと進路についてのサポートを考えてほしい</li> <li>◇ICT機器の充実や活用を進めてほしい</li> <li>◇生徒会のさらなる充実を期待したい</li> <li>◇海外との交流を取り入れてほしい</li> <li>◇高校生の意見を吸い上げてほしい</li> </ul>	高校生の意見を学校運営や教育課程の編成に積極的に取り入れていくとともに、引き続き高校生の意見を聞く方法の工夫をしていく。

## 伊那新校 NSD会議設置要綱（案）

高校再編推進室

### 1 目的

県教委が、伊那新校再編実施計画懇話会における意見交換を受けて「施設整備事業基本計画」を策定するにあたり、伊那新校再編実施計画懇話会に専門会議（NSD会議）を設置して事前に意見交換することによって、伊那新校再編実施計画懇話会の意見交換を円滑に進めることを目的とする。

※NSD…長野県スクールデザインの略

### 2 運営

- (1) 会議には部会長を置く。
- (2) 会議は、構成員の過半数の出席をもって成立する。
- (3) 会議は原則として非公開とする。

### 3 内容

- (1) 施設整備事業基本計画策定に係る意見交換
- (2) ワークショップ等への参加
- (3) 会議内容の懇話会への報告

### 4 構成員

伊那新校再編実施計画懇話会構成員の中から、選出母体のバランス等を考慮して、10～15名程度で構成する。

ただし、代理の出席を可とする。

## 伊那新校 再編実施計画懇話会 NSD会議 構成員（案）

	区分	氏名	所属等
1	自治体	本多 俊夫	駒ヶ根市 教育長
2		伊藤 徹	伊那市 副市長
3	産業界	田畑 和輝	伊那商工会議所 監事
4	学識 経験者	高橋 百合子	長野県看護大学 小児看護学講師
5	地域	中山 佳代	元上伊那地域の高校の将来像を考える協議会 委員
6	同窓会	山田 益	伊那北高等学校同窓会 運営委員会委員長
7		下島 典子	伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会 会長
8	統合校 関係者	改野 瑛士	伊那北高等学校 生徒代表
9		坪木 文佳	伊那北高等学校 生徒代表
10		滝田 大和	伊那弥生ヶ丘高等学校 生徒代表
11		北原 萌七	伊那弥生ヶ丘高等学校 生徒代表
12		埋橋 浩	伊那北高等学校 校長
13		山岡 久俊	伊那北高等学校 教諭
14		松村 明	伊那弥生ヶ丘高等学校 校長
15		唐澤 功	伊那弥生ヶ丘高等学校 教諭



